

若者UP

検索

www.wakamono-up.jp

知らない世界へ
一歩を踏み出すのは
やっぱり怖かった

僕は、高校を卒業してから、ずっとプールの監視員のアルバイトばかりをやってきました。プールが休場になって暇なときに、プログラミングを独学で勉強したこともあり、もともと興味があったんです。でも、独学ではまったくわからないところがあったりして……。結局、断念してしまいました。

そんなことがあったので、ちょうど若者サポートステーションでMIC（Microsoft Innovation Center）のプログラミング研修のことを聞き、参加したいと思いましたが、定員オーバーだったんです。残念に感じつつも、知らない世界に一歩を踏み出すのは怖かったので、「どうせ自分には無理だから」とあきらめました。なのに、研修にキャンセルが出たと電話がかかってきたとき、はすみで「行きます」と答えました（笑。「この「はすみ」が僕のそれから変えました。

僕の心のなかに
「プログラマになる」という
選択肢が生まれた

MICのプログラミング研修は、僕にとってはとても難しいものでした。でも、楽しかった。まったくプログラミングのことがわからない状態で行ったので、技術的なことを習得できたという感じではなかったのですが、「こういうことを仕事にしたい」と思えるようになりまし。

研修時に、ダンクソフトでインターンをさせてもらい、ますます「プログラマになりたい」という思いが強くなりました。簡単なアプリを作ったんですが、自分でプログラミングしたものが、思い通りに動いたときはホントにうれしかったんです。

ダンクソフトはとても雰囲気の良い会社で、「ああ、こんな会社で働けたらいいな」と思っていましたけれど、まさか本当に雇っていただけるなんて思ってもみませんでした。

自分のなかの切実な思いが
将来への一歩を
踏み出すきっかけ

あのとき、もし研修に行かなかつたら、僕はまだプール監視員のアルバイトを続けていくかもしれません。そして、将来への不安をできるだけ見ないようにして、先延ばしにしてなんとなく毎日を過ごしていたと思います。

人になんと言われても、自分のなかに切実な思いがないとなかなか動き出せないものです。

僕の場合は、それが「30歳という年齢」でした。何かきっかけがあれば動き出せるんだと思います。

焦る必要はないけど、早く一歩を踏み出したほうがいい。だから、自分なりのきっかけをつかんでほしいなと思います。



▲会社でのミーティング風景。
半年前から開発チームに所属している。

高校卒業後、約10年間、プールの監視員のアルバイトを続けてきたという柳沼さん。30歳を前に「このままじゃいけない」とハローワークで職を探したとき出会ったのが、ちょうど若者サポートステーションでの若者UPプログラムでした。プログラミングに興味があった柳沼さんは、MICのプログラミング研修に参加。研修時のインターン先である株式会社ダンクソフトに正社員として入社することになりました。入社して1年が経つ柳沼さんに、フリーター時代のこと、就職に対する思い、そしてこれからのことを聞きました。

高卒後10年間のフリーター生活を経て 念願のプログラマへ。

株式会社ダンクソフト ● 柳沼 義智さん (32歳)

